

同窓会誌

68



カラーグラビア① 「母校 教育学部は今
—先生のための大学院〔教職大学院〕の開設—」

カラーグラビア② 座談会スナップ

カラーグラビア③ 「同窓会の活性化を目指して—平成28年度の同窓会の活動—」

特集 座談会 「なぜ同窓会離れは進むのか」

島根大学教育学部同窓会

母校 教育学部は今

—先生のための大学院〔教職大学院〕の開設—

【教職大学院がめざす教師像】
学び続ける教師

子どもをよく理解できる教師 (子ども支援力)	組織の中で力を発揮する教師 (学校創造力)	優れた教科指導力を持つ教師 (授業デザイン力)
---------------------------	--------------------------	----------------------------

省察による教育観の深化
【教職大学院が育成する力】

教職大学院のコンセプト



教育学部棟正面玄関



カンファレンスルームでの授業風景



アクティブ・ラーニングを重視した学部新卒学生と現職教員による学び合い

※P4に関連記事を掲載しています。

座談会スナップ



※P12に関連記事を掲載しています。

同窓会の活性化を目指して

役員総会 (6月18日)



小川巖学部長講話

肥後功一
教授講演



教育振興奨励賞授与式(11月10日)

—宮崎紀雅氏受賞—



支部活動



江津支部：懇親会(平成28年1月16日)



東京支部：総会・懇親会 (10月23日)

—平成28年度の同窓会の活動—

学部ホームカミングデー・シンポジウム (10月9日)



シンポジウム報告



シンポジウムコメント



シンポジウム交流会



懇親交流会

模擬面接の協力
(6月29日)



刊行物の発刊



会誌68号
(H29・1月24日)



Leaf@同窓会 No.8
(9月20日)



同窓会名簿2016
(11月2日)

同期生会



「和光同期生会」
〈昭和34年卒業〉(10月11日)



「ひまわりの会」
〈昭和37年卒業〉(10月6日)



「ただいまつえ会」
〈平成25年卒業〉(平成27年12月29日)

島根大学卒業式会場の変遷

—大学講堂・旧第2体育館・県民会館—

昭和24年、島根大学（文理学部・教育学部）が設置され、第1回の卒業式は、昭和28年3月17日に行われている。

平成28年3月に行われた卒業式は通算63回目に当たる。教育学部のこれまでの卒業生（専攻科・大学院等を除く）は、14,176名になる。この間の卒業式会場は、大学講堂、大学旧第2体育館、県民会館と移り変わってきている。

大学講堂（昭和28年～39年）

第1回の卒業式は大学講堂（現在の本部棟の地にあり）で行われている。講堂は大正建築的な風格のある建物であった。



当時の卒業式の様子



昭和34年頃の大学講堂

大学旧第2体育館（昭和40年～昭和60年）

大学講堂の後は、大学旧第2体育館（現在の総合理工学部の地にあり）で卒業式が行われた。ただし、昭和44年の卒業式は、学園紛争のため行われず、学部毎に卒業証書並びに修了証書を授与した。

県民会館（昭和61年～平成27年）

大学旧第2体育館の後は、県民会館で行われた。ただし、平成28年の卒業式は県民会館改修工事のため、くにびきメッセで行われている。



平成28年の卒業式の様子



平成23年の卒業式の様子

目次



カラーグラビア① 母校 教育学部は今—先生のための大学院(教職大学院)の開設—

カラーグラビア② 座談会スナップ

カラーグラビア③ 同窓会の活性化を目指して—平成28年度の同窓会の活動—

母校今昔 島根大学卒業式会場の変遷

巻頭言 退職後の「生きがいづくり」のために

……………教育学部同窓会副会長 神本 晃 (2)

教育学部最前線

島根県・鳥取県の教育の未来を拓く大学院をめざして

教育学研究科教育実践開発専攻(教職大学院)専攻長・教授 肥後 功一………… (4)

特集 座談会 なぜ同窓会離れは進むのか………… (12)

・出席者・安達和哉・荒井悦加・辺見康孝・川津愛子

・有馬毅一郎

・司会者・恩田元穂

・紙上参加者・森本早花・足立理菜・大山祐一郎・原真佐子
河添達也・大岩誓子・永濱哲夫

第10回教育学部ホームカミングデー………… (39)

□シンポジウム「地域で活躍する教育学部の卒業生と現役生パートⅢ」

・報告者・町川大弥・藤原香奈海・原田佳緒里・岩田幸子………… (40)

・コメンター・大畑伸幸・宮本美香………… (43)

□シンポジウムのあらかし・ホームカミングデー懇親交流会………… (44)

第10回島根大学ホームカミングデー………… (45)

私の研究紹介………… (36)

教職回顧………… (38)

支部からの声………… (48)

第5回教育振興奨励賞決定………… (81)

専攻だより —研究室はいま—………… (53)

平成27年度島根大学教育学部卒業研究題目一覧………… (82)

平成27年度島根大学大学院教育学研究科修士論文題目一覧………… (89)

ただいま活躍中!!………… (63)

表紙絵作家の交代について………… (46)

近況報告

本部だより………… (68) 有志会・同期生会だより………… (71)

島根大学教育学部同窓会規約・同窓会個人情報の保護に関する規程………… (92)

事務局より………… (11)(79)(80)(96)(98)(99)(100)

受贈図書紹介………… (80) 表紙に寄せて・編集後記………… (101)



退職後の

「生きがいづくり」のために

教育学部同窓会副会長 神本 晃

早いもので、私が公立学校教員を退職して、十五年以上が経ちました。現職時代は、中学校二十九年、行政職五年、小学校三年の職場を経験しました。いずれの職場でも「場」に恵まれ、「人」に恵まれ、「運」に恵まれた楽しく有意義な年月でした。退職後、三隅町教育委員、三隅町社会福祉協議会会長、浜田市人権同和教育センター指導主事等の体験もさせて頂きました。

そんな私にとって、退職後の「生きがい」ということが常に頭にあった課題でした。確かに退職後は、社会的に束縛されない自由な生活がありました。しかし、のんびんだらりと過ごせることは、魅力あるうれしいことである反面、何かものたりなさを感じることも事実でした。これから先も、何かを生きがいとして持つことが大切だと思ったのです。そんな時思いついたのが、子供の時から親しんだ石見の方言でした。子供時代のことは方言が中心であり、家族や周囲の人々が話す言葉も方言でした。今にして思えば馬鹿げた政策だったと思いますが、戦後の文部省の施策は、方言の撲滅であり標準語の全国的な普及でした。このことは、ある程度成功しましたが、失ったものも多かったと思います。

最近、私には方言が撲滅危惧語として、消え去ることへの危機感がだ

んだんと深まってきたのです。

このようなことを背景にして私の石見方言研究が始まったのでした。現職時代も少し興味があり、書きとめていた資料も若干ありましたので、これからの生きがいの一つとして方言について取り組むことになったのです。そして、今までに石見方言に関する著作三冊を著すことが出来ました。その他石見方言に関する各地での講話活動や執筆活動にも取り組みました。そして今年度からは、NHK松江から請われて、出雲方言の大家藤岡大拙先生と「島根のことばカフェ」にも毎月出演させてもらっています。改めて、出雲方言、石見方言、隠岐のことばなどを知ることにより、毎回方言についての新しい発見もあり、楽しく番組に参加させて頂いています。

一般的に方言は、恥かしい田舎言葉として使用しない方がよいという風潮がありますが、けっしてそうではなく、石見弁は京都言葉にそのルーツを持つ言葉の残存であることも、民族学者柳田國男氏の「方言圏圏論」で知ることが出来ました。私の持論ですが、言葉の使用は二刀流であるべきで、TPO（時、場、状況）に応じて使い分けるべきだと思います。

このようにして、私の生きがいの一つとしての方言研究は、だんだんと広がってきました。石見方言に益々魅せられていきそうな今日この頃です。

〈神本 晃氏プロフィール〉

島根県浜田市出身

平成二十二年から現職（副会長）

平成二十八年度よりNHK松江局番組

「島根のことばカフェ」に出演中